

大滝ダム運用環境調査委員会
第8回委員会 議事要旨

開催日時：平成22年8月2日(月) 14:00～16:00

開催場所：大阪国際交流センター 3階会議室1・2 (大阪市天王寺区上本町8-2-6)

出席者：

委員長 角 哲也 (京都大学 防災研究所 教授)

委員 井伊 博行 (和歌山大学 システム工学部 教授)

委員 田中 哲夫 (兵庫県立大学 准教授)

委員 矢田 敏晃 (元大阪府立淡水魚試験場 場長)

欠席者：

委員 竹門 康弘 (京都大学 防災研究所 准教授)

1. 議事

(1) 第7回委員会議事要旨及び平成21年度現地調査結果の報告

- ・平成21年度の現地調査結果について、報告された。

(2) 調査結果について

- ・大滝ダム暫定運用開始以降のデータでは河川環境に大きな変化は認められない。
- ・但し、大滝ダム下流から高見川合流までの区間については、河川地形の変化、それに伴う水質及び水生生物への影響について注意して観る必要がある。
- ・さらに、高見川合流後の下流河川においては、支川の合流や取水等、環境に対するインパクトが複数あるので、これらのインパクトを踏まえて現況を明らかにしておく必要がある。
- ・なお、現在の状況はゲート全開による自然調節状態であり、本格運用前にこれまでのデータをとりまとめておく必要がある。

(3) 平成22年度の調査計画について

- ・浮遊性プランクトンのデータについては優占種の変化をみてほしい。
- ・樫尾発電所下流の減水区間において付着藻類調査を追加してほしい。
- ・調査内容・調査地点について必要性を再検討し、効率的かつ効果的な調査を行う。

以上